

平成20年度～平成21年度調査・研究事業

## 六十里越街道でつながる広域連携・交流促進プロジェクト《山形県山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町》

### 【概要】

山形市～鶴岡市間を結ぶ「六十里越街道」は、かつて出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）への信仰の道、庄内と内陸の物流交易の道など多面的な役割を持ち、山形県の中央を横断する中核的道路として、各地から訪れる参拝者や行商の往来等により賑わっていたが、明治以降、自動車の普及や高速道路等交通網の整備に伴い、街道は古道になるとともに、沿線地域の結びつきは希薄になった。

近年、地元関係者により街道の文化価値の再認識がはかられるとともに、地域間の連携を深めようとの気運が高まってきているが、限定的な活動にとどまっている。

本調査では、山形県・六十里越街道沿いの3市2町（山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町）が、広域的な連携による地域づくりを推進することにより、沿道住民の街道文化価値再認識と交流の活性化、および域外からの交流人口拡大による産業振興、地域活性化をはかるため、今後の活動指針および具体的なアクションプランを検討・立案することとし、平成20～21年度の2カ年継続事業として取り組んだ。

### 【対象市町村、モデル地域等】

山形県山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町

### 【調査年度】

平成20年度～平成21年度

### 【提案・要請者】

山形県山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町

### 【提言内容・その後の活動等】

平成22年2月7日に開催した「六十里越街道広域連携フォーラム」において、山形市、中山町、寒河江市、西川町、鶴岡市の3市2町の首長が、「改めて六十里越街道を共通の資源、財産として捉え直し・共有し、沿線住民がお互いに手を携えて、歴史と文化と産業振興の協働体を築いていくこと」を宣言し、六十里越街道を有する地域が一体となり、広域的な地域づくりを進めていく土台ができた。

平成22年度以降については、本プロジェクトの成果を土台に、「六十里越街道」という歴史的な街道でつながっている沿線自治体の広域的な連携をさらに強化するため、「(仮)六十里越街道地域連絡会議」を設立し、3市2町による街道合同パンフレットの作成、道の駅へのインフォメーションセンターの設置などのアクションプランの実現をはかっていく。

### 【成果品】

### 【調査体制】

委員会、戦略プロジェクトチーム

**【委員長・座長】**

清水 慎一 株式会社ジェイティービー 常務取締役

**【事務局】(MCT は除く)****【調査協力機関】**

(株)東北地域環境研究室

**【視察先・ヒアリング先など】****【委員等】(分科会等は除く)**

伊藤 眞知子 東北公益文科大学 副学長

張 大石 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター 准教授

渋谷 雄司 株式会社山形新聞社 専務取締役

新関 芳則 株式会社丸八やたら漬 代表取締役副社長

宇生 雅明 庄内映画村株式会社 代表取締役社長

中村 稔 山形県文化環境部長

**【特記事項】****【区分】**

プロジェクト発掘・支援